



成瀬台中学校だより

令和8年度—第4号—

Tel (042) 728-6030 HP <http://www.machida-tyo.ed.jp/j-narusedai/>

令和8年6月26日発行

学校目標

[自主]個性を生きし 自ら学び続ける人間

[敬愛]自他を尊重し 思いやりのある人間

[克己]困難に打ち克つ 心身ともにたくましい人間

温かく穏やかな
雰囲気の学校づくりを

「平和教育講演会(長崎原爆について)」

校長 土屋 敏彦

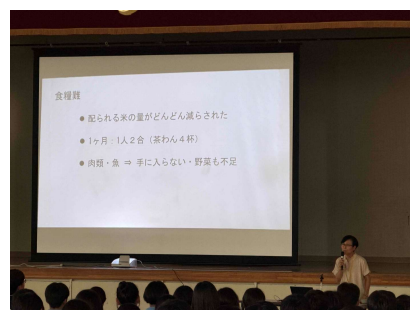
6月19日(金)の5・6時間目、2年生を対象に平和教育講演会を開催しました。当日は翻訳家の宇治川康江さんをお迎えし、長崎原爆についてのお話を伺いました。宇治川さんは、米国人のスーザン・サザードさんが12年をかけて執筆した『ナガサキ〜核戦争後の人生〜』に感銘を受け、「日本人にぜひ読んでほしい」という強い思いから自ら翻訳を申し出られた方です。現在は長崎の原爆被害を語り継ぎ、核兵器や平和について考える講演活動をしてくださっています。当日は、以下のような原爆被害の悲惨な現状について、宇治川さんが実際にインタビューした被爆者の方々の声を交えながら、臨場感をもってお話しいただきました。

- ・原爆の圧倒的な威力(熱、爆風、放射線)
- ・現在、世界中にある核爆弾の数
- ・瓦礫となった長崎の町
- ・黒焦げになった母子、立ったまま炭になった馬
- ・山王神社のクスノキ
- ・被爆者の行列や、その後の長い治療の苦しみ
- ・苦しい幼い弟と妹を看取り弔ったこと
- ・悲しみのあまり話をしなくなった母親の姿 など

講演を聴く2年生の姿は真剣そのもので、しっかりと背筋を伸ばして耳を傾けていました。途中の質問に対しても、何人かの生徒が堂々と挙手をして自分の意見を述べてくれました。宇治川さんはこの姿に大変感激され、「成瀬台中の生徒さんは本当に素晴らしいですね」とお褒めの言葉をくださいました。校長として、これほど嬉しく誇らしいことはありません。2年生の皆さん、立派な態度をありがとうございます。

現在も、ウクライナやイラン、パレスチナでの紛争が連日報道されています。

戦争は絶対に行ってはいけません。2年生の皆さんには、今回の講演をきっかけに「日本が戦争に巻き込まれないためにはどうすればいいのか」を考える大人になってほしいと思います。そしてニュースを見るたびに、戦争の陰で誰が犠牲になり、誰が平和を望んでいるのか思いを馳せてもらえたら嬉しく思います。



「生徒の感想」

原爆は人として絶対に使ってはいけないものだとは再確認することができました。また、これが1万個以上も地球上に存在していることにばかばかしさを感じました。

日本は原爆の恐ろしさというものをこの先も世界中に伝えていってほしいと思います。そのためには国民が原爆の知識をもって、みんなで意識をすることが大事だと考えました。成瀬台中学校に来ていただきありがとうございました。

本日はありがとうございました。原爆がどのようなものなのか、体へはどんな被害があるのかを知り学ぶことができました。これからも長崎・広島での原爆の怖さをずっと伝えていきたいと思いました。また、どうやったら今起こっている戦争を止めることができるのかを自分でも考えてみたいと思いました。実際に戦争を止められなくても、考えるだけでも少しは変わることがあると思うので、もっと戦争のことを深く知って、実際に起こっている戦争を考えてみたいと思いました。

今日は私たちのために貴重なお時間を使って原爆や平和についてのお話をいただきありがとうございます。私のおばあちゃんの母が、広島？かどこかにいて被爆したと聞いていました。部屋の中にいたし、結構離れていたのにガラスの破片が刺さってしまったそうです。もう二度とこのような思いをする人が出てほしくないと思うし、小さなことでも私にできることがあったらやっていきたいです。今、世界のどこかで戦争が起こっていると知っているのに何もできない自分が悔しいですが、1日、1秒でも早く戦争が終わることを願っています。毎年の黙とうもしています。原爆は本当になくなってほしいです。今日は本当にお忙しい中ありがとうございました。

今日の長崎原爆についてのお話を聞いて、学んだことがたくさんあります。被爆者の人々の苦しみやその家族の思いなど、今まで考えたことのなかったことばかりでした。原爆という名前は聞いたことがあっても、その威力までは全く知らなかったのが本当に驚いたし勉強になりました。

今日の話を聞いて、今まで以上に平和なことに対してのありがたみの気持ちが強くなりました。ありがとうございました。

